

「応急手当事前学習テキスト」 (小児・乳児救急編)



那覇市消防局 救急課



小児・乳児救急 目次



I 救命処置の流れ

II 子どもの突然死の主な原因

III 病気・ケガの予防・対応

Q&A

I 救命処置の流れ

【安全確認】



【119番通報とAEDの依頼】



【意識・呼吸の確認】



【胸骨圧迫】



【AEDの使用】



I 救命処置の流れ

【安全確認】

- 近寄る前に周囲の安全を確認する。

【119番通報・AED依頼】 ・ 【意識・呼吸の確認】

- 傷病者を呼びかけながら、肩をたたきは反応があるか確認します。
- 呼びかけに反応がない場合は 119番通報とAEDを依頼する。
- 8秒かけて胸部や腹部を見ながら普段通りの呼吸があるか確認する。

※判断に迷った場合は、呼吸停止とみなし胸骨圧迫を開始する。

I 救命処置の流れ

【胸骨圧迫】

- 強さ・・・胸の厚さの約1/3沈む深さまで圧迫します
- 年齢の目安・乳児（1歳未満）・・・2本指で圧迫
小児（1歳～16歳未満）・・・片手で圧迫

※体格に応じて、両腕で圧迫してもよい。

【AEDの使用】

- AEDのフタを開け、電源ボタンを押す。
- パッドを装着する。（6歳以下であれば小児用モード・パッドを使用）
- 心電図の解析後、必要であれば電気ショックを行う。

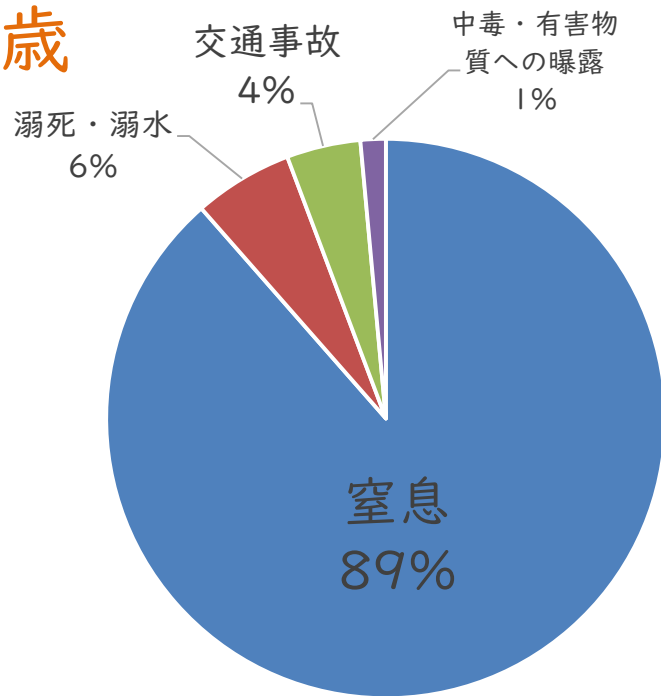
Ⅱ 子どもの突然死の主な原因

- ・ 交通事故
- ・ 溺水
- ・ 窒息
- ・ 転倒・転落
- ・ スポーツ時の事故

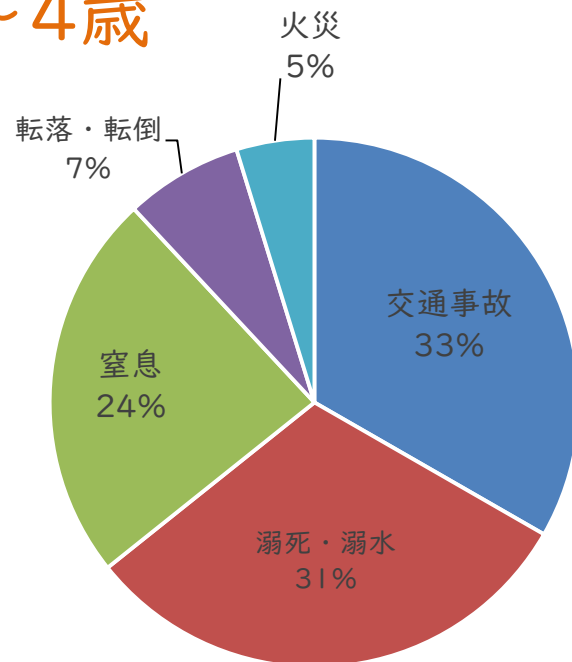
※多くは日常生活の中で十分に注意することで予防できるものです。
心臓や呼吸が止まってしまった場合の救命処置も大事ですが、
突然死につながるような事故を未然に防ぐことが効果的です。

不慮の事故の死因順位

0歳



1～4歳



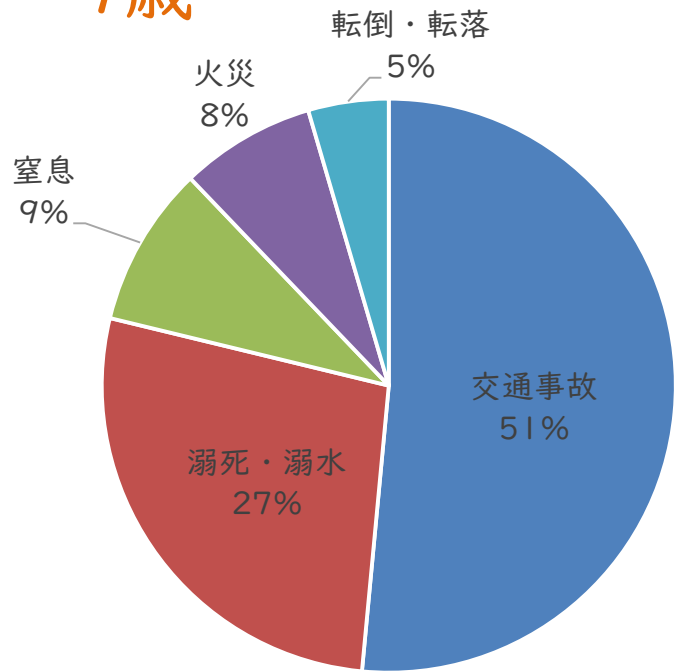
■ 窒息 ■ 溺死・溺水 ■ 交通事故 ■ 中毒・有害物質への曝露

■ 交通事故 ■ 溺死・溺水 ■ 窒息 ■ 転落・転倒 ■ 火災

資料：厚生労働省「人口動態統計」平成28年

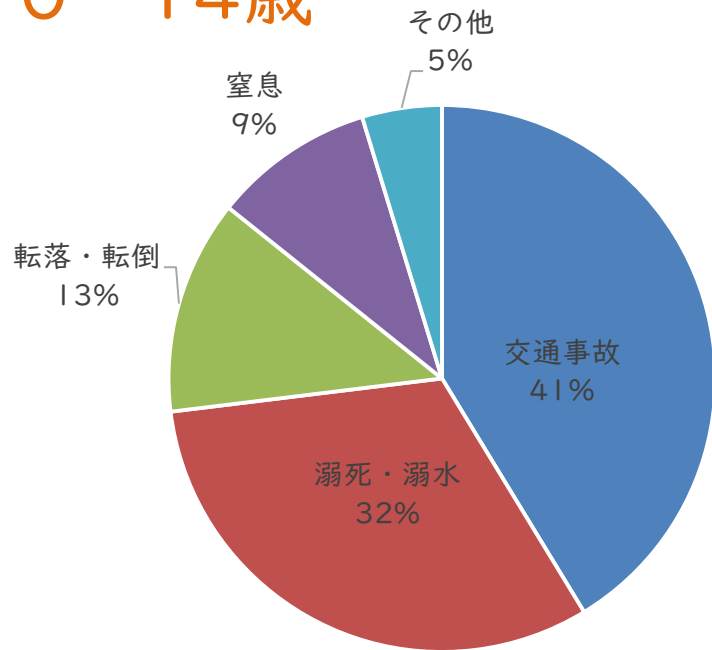
不慮の事故の死因順位

5～9歳



■ 交通事故 ■ 溺死・溺水 ■ 窒息 ■ 火災 ■ 転倒・転落

10～14歳



■ 交通事故 ■ 溺死・溺水 ■ 転落・転倒 ■ 窒息 ■ その他

資料：厚生労働省「人口動態統計」平成28年

Ⅲ 病気の対応



けいれん（痙攣）

- けが防止のため、イスやテーブルなど角があるものは傷病者から遠ざけます。
- 無理に抑えたり、舌を噛むことを予防する目的で口の中に物を入れてはいけません。
- 気道確保をしてください。また、痙攣の様子や持続時間を観察しておきます。

発熱



- 体を温め、汗がかいたら汗を拭いて着替えましょう。
- 水分補給を定期的に行いましょう。
- 乳幼児は汗をかく機能が未熟なのであまり厚着などで温めると、熱がこもり逆効果になってしまいますので温度管理を行いましょう。

Ⅲ 病気の対応



おう吐

- 吐いたものが詰まらないように体勢を整えたり、寝ている時は身体を横に向けましょう。
- 水分補給が可能であれば水分摂取をしましょう。
- 衣服など、汚れ場合は着替えて清潔を保ちましょう。

下痢

- 水分補給をこまめに行い、脱水を防ぎましょう
- 便はしっかり洗い流しましょう。かぶれの原因になります。
- 便の回数や色、においを観察しましょう。（診療の助けになります）



出血

Ⅲ ケガの予防・対応



【予防】

ドアやテーブルなどに指を挟まないように気を付ける。ハサミなど危険なものは届かない場所に保管しましょう。

【対応】

出血部位にガーゼや布等で強く抑えましょう。（直接圧迫止血法）

※感染防止のためビニールやゴム手袋を使用しましょう。

やけど

【予防】

アイロンやライター、コンロなどの保管場所や管理に気を付けましょう。

カイロや湯たんぽ等の、低温やけどにも注意しましょう。

【対応】

流水で15分以上冷やしましょう。乳幼児は低体温にならないように体温管理にも気を付けましょう。



Ⅲ ケガの予防・対応

窒息



【予防】

小さなおもちゃ（ビー玉・ブロック）などは手の届かない場所に保管しましょう。
また、食べ物は小さく刻むなど詰まらないように工夫しましょう。

【対応】

- ①意識があり、咳をしていれば背中をたたくなどさらに咳を促します。
- ②意識がない場合はただちに119番通報し、気道異物除去を行います。

背部叩打法・・・肩甲骨の間を強くたたく。（5回程度）

胸部突き上げ法・・・乳児を仰向けにして5回程度、胸部を圧迫します。

※上記を実施しても異物が出ない場合は、胸骨圧迫を実施してください。

Ⅲ ケガの予防・対応

熱中症

【予防】

乳幼児は体温調節機能が未熟なため周囲のサポートが必要になります。
室内・屋外問わずに、こまめな水分補給や着替え等を行いましょう。
自動車内の放置による熱中症があとをたちません。
季節に関わらずに車内に子どもを残さないでください。

【対応】

衣服を緩め、日陰や冷房の効いた場所に移動させます。
保冷剤や濡らしたタオル等で、脇・足の付け根を冷やします。
スポーツドリンクや冷たい水で水分補給をします。
自力で水分摂取出来ない場合や、意識がもうろうとしている場合は無理に飲ませずに、
119番通報しましょう。



Ⅲ ケガの予防・対応

水の事故



【予防】

- ・ 自宅の場合は、浴槽のフタを閉める又は水を抜く、トイレのフタを閉めるなど乳幼児は体が小さいため少量の水でも溺れることがありますので注意をしましょう。
- ・ 水遊びをする場合は、お子さんの目を離さないでください。また、お子さんのみでビーチやプールは絶対に行かせないでください。

【対応】

意識がある場合には、体を拭いて毛布などで温め、衣服の着替えも行いましょう。

意識がない場合には直ちに、

【119番通報・胸骨圧迫・AEDの使用を行います】



Ⅲ ケガの予防・対応

交通事故・転倒

【予防】

- ・ 車に乗る時のチャイルドシートの着用
- ・ 自転車ではヘルメットの着用
- ・ 階段・柵など転落防止対策

【対応】

- ・ タオル等で止血する
- ・ 時間が経つと急変することがあるので経過観察を行う



Q&A



Q.救急車を要請するか迷う場合はどうすればよいでしょうか？

A. 小児救急ご相談窓口がございます。

【 #8000番 小児救急でんわ相談 】 (厚生労働省)

A. スマートフォンアプリから緊急度判断ができます。

【 全国版救急受信アプリ「Q助」 】 (総務省消防庁)